

地域防災を支える女性消防協力会の充実を

民報

おうしゅう

読者版

発行
 赤旗奥州出張所
 水沢大手町三丁目 59
 Tel 24-2021
 Fax 24-2049



菅原 明議員

倉成淳市長は、地域により異なるが、防災訓練、救命講習会

活動の在り方を見直す時期に来ている

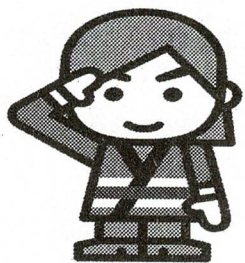
について、質しました。

菅原明議員は、近年女性消防協力会の会員減少が著しく、組織の在り方が危惧されることから、多くの市民に、女性消防協力会の活動を知ってもらうことと、多くの女性に会員として積極的に参加していただきたいという考えから、協力会の活動状況と会員の確保策等について、質しました。

奥州市議会令和7年第1回定例会は、3月14日に閉会しました。5人の共産党市議団は、市民の福祉向上と市政課題について一般質問しました。今号では、菅原明議員の質問について紹介いたします。

奥州市の女性消防協力会は、防災意識の高揚などを目的に、合併前の旧市町村当時から任意団体として組織されてきました。

火防点検などの活動を通じ、防災意識の向上に資する事業に取り組んでいただいている。一方、平成28年に1300人登録されていた会員が、令和6年度には820人となり8年間で500人以上の会員が減少している。また組織数も29団体から16団体と13団体減少しており、会員の確保や組織の存続が課題となっている。県内においても女性消防協力会の組織が廃止される市町村があるなど、活動の在り方についても見直す時期に来ているものと捉えている、と述べました。



自主防災組織との連携を

菅原明議員は、人口減少が進む今日、中山間地域で災害が発生した場合、地域の自主防災組織と協力会がいっしょになつて対応できる体制を構築することが求められているのではないかと主張しました。

子どもの自殺対策を

菅原明議員は、厚生労働省がまとめた2024年の、小、中、高生の自殺者数が、統計開始以降最多であり、岩手県が全国1位であることから、当市の現状と対策について市長に質しました。

教員への研修を検討

倉成淳市長は「警察庁の統計によるものだが、20歳未満の自殺者数は年に一人から二人となっており変わらない傾向にある。令和6年3月に第2次奥州市自殺対策計画を策定し、取り組みを進めている。命の大切さを考える講習会の対象者を従来の中学生だけでなく小学生にも拡大した。令和7年度には、教員を対象としたゲートキーパー研修やセルフケアの研修について検討する」と述べました。

日本共産党 演説会

党副委員長
参議院議員

山下よしき

参院比例予定候補

はたやま

和也

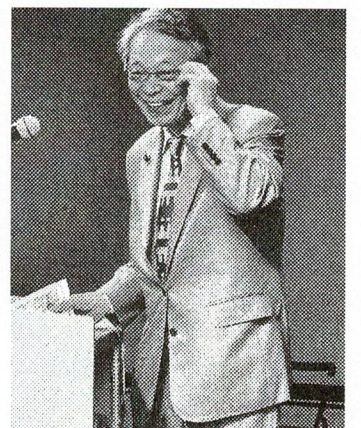
前衆議院議員
衆院東北比例予定候補

高橋ちづ子

4月5日(土) 午後2時
 岩手県民会館大ホール

大型バスを運行します。(バス代金 2,300 円)
 往路 市役所江刺総合支所 午前 11 時 30 分発
 まちの駅水沢 正午発
 (Zプラザアテルイ)
 復路 県民会館 午後 4 時発
 まちの駅水沢 午後 5 時 30 分頃
 市役所江刺総合支所 午後 6 時頃

「希望と未来を語るつどい」開催



22日奥州市Zホール展示室で、穀田恵二前衆院議員を迎えて「希望と未来を語るつどい」が行われ、75人が参加しました。

穀田氏は「赤旗」日曜版の紙面を広げ、石破首相の「10万円商品券配布問題」などを批判しました。また、岩手県などで実施する中小企業への賃上げ支援の創設や他の地域で実現している学校給食無償化などを挙げ、国民の立場に立って力を尽くす党の姿を紹介しました。

そして、政治の「二つのゆがみ」をただす日本共産党を参院選で伸ばしてほしいと訴えました。

ぜひ、ご参加ください♪